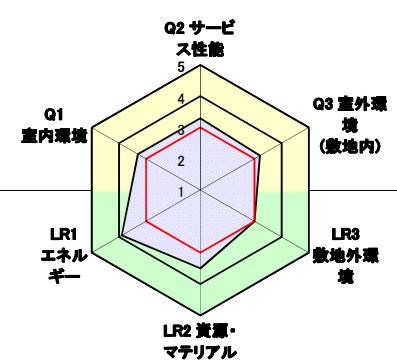
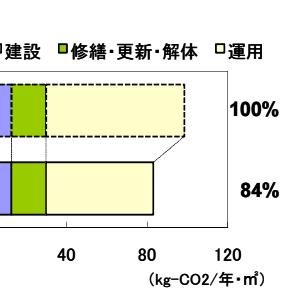
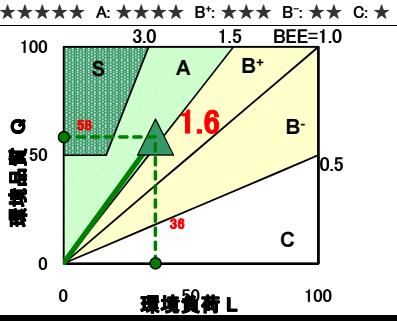


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	物質-細胞統合研究棟	階数	地上4階、地下1階
建設地	京都府京都市左京区吉田本町36番	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域区分IV	平均居住人員	0人
気候区分		年間使用時間	0時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年10月 予定	評価の実施日	2009年11月1日
敷地面積	162,270 m ²	作成者	神先誠司
建築面積	643 m ²	確認日	
延床面積	3,050 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 大項目の評価(レーダーチャート)		2-3 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	
BEE = 1.6  S: ★★★★★ A: ★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B: ★★ C: ★				 参照値 (100%) 評価対象 (84%)	
				このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)					
Q 環境品質			Q のスコア = 3.3		
Q1 室内環境			Q2 サービス性能		
Q1のスコア = 3.3		Q2のスコア = 3.3		Q3 室外環境 (敷地内)	
音環境	3.0	機能性	2.8	生物環境	2.0
温熱環境	3.2	耐用性	3.4	まちなみ	4.0
光・視環境	3.0	対応性	4.1	地域性・	3.5
空気質環境	4.2				
Q のスコア = 3.3			Q3のスコア = 3.2		
LR 環境負荷低減性			LR のスコア = 3.5		
LR1 エネルギー		LR2 資源・マテリアル		LR3 敷地外環境	
LR1のスコア = 3.9		LR2のスコア = 3.5		LR3のスコア = 3.0	
建物の	5.0	水資源	3.4	地球温暖化	4.2
自然エネ	3.0	非再生材料の	3.3	地域環境	2.5
設備シス	4.1	汚染物質	4.3	周辺環境	2.4
効率的	3.0				

3 設計上の配慮事項					
総合			その他		
多用で豊かな交流が生まれるキャンパス、地域に開かれたキャンパス、他大学や周辺施設との連携を持ったキャンパスを目指し、計画をおこなった。			0		
Q1 室内環境			Q3 室外環境 (敷地内)		
断熱性能を高めるとともに、自然換気の配慮を行った。			まちなみ、景観への配慮を行った。		
LR1 エネルギー			LR3 敷地外環境		
省エネ計画をおこなうとともに、運用においても、環境負荷の低減に努めるものとする。			関係法令を遵守し、敷地の緑化等をおこなった。		
Q2 サービス性能					
バリアフリー、耐震性の配慮を行った。					
LR2 資源・マテリアル					
再生資源の活用、有害物質を含まない材料の使用に努めた。					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される